超高齢化社会への備え
シニアの鉄人

第76回

海自から日本語教師へ　第二の人生に込めた思い

はじめに

防衛大学校26期、海上自衛隊幹部候補生学校33期の大林幸義です。海上自衛隊に入隊後は、主に潜水艦隊で勤務し、2隻の潜水艦艦長を務めた後、2007年に依願退職しました。

その間、自衛隊地方連絡部地域事務所長や援護業務課での勤務、イージス護衛艦の副長など、貴重な経験を積ませていただきました。

その後、当時の川崎造船株式会社（現・川崎重工業株式会社ES&Mカンパニー神戸工場）に操艦長として勤務し、24年6月末で定年退職しました。

日本語教師として教鞭をとる著者

操艦長としての勤務中、7隻の新造潜水艦と1隻の新造深海救難艇（DSRV）が所定の性能を有するかを確認する海上公試を指揮しました。新型コロナウイルス感染症を含むさまざまな問題もありましたが、素晴らしい仲間たちと力を合わせ、すべて無事故で乗り切ることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

現在は、非常勤ではありますが9月から日本語教師として教鞭をとっています。

日本語教師になろうと思ったのは、定年の1年半前の年末に「今後どう生きようか」「自分は何をしたいのか」と自問したことがきっかけです。

地域事務所長として、大学や高校を卒業し自衛隊に夢を抱いて入隊する学生や、潜水艦艦長として若い隊員と接した素晴らしい経験を思い出し、若者を励ます仕事とは何かを考えました。

その結果、日本語を学び、日本で働くことを目指して来日する若者たちが多いことに気付き、彼らの力になりたいと日本語教師に興味を持ちました。

こうして翌年2月から1年間、日本語教師養成講座を受講することにしました。

仕事後に夕食をとり、18時から21時までの講習を受け、帰宅は23時半になることも度々ありました。就職先を探した際、神戸や大阪には多くの学校がありましたが、自宅からの通勤を考慮し、姫路の日本工科大学校に応募しました。65歳を過ぎていたため不安もありましたが、面接の機会と模擬授業も見ていただいた結果、9月から採用となり現在に至ります。

この学校にはネパールやミャンマーから来日し、日本語を学んだ後、専門学校や大学に進学したり、就職を目指している学生がたくさんいます。

彼らは目標を持って日本で学んでいるため、非常に真面目で素直な学生が多いです。授業の開始や終了時にはリーダーが号令をかけ「よろしくお願いします」「ありがとうございました」と頭を下げてあいさつします。教室の入退室時には「失礼します」「先生、さようなら」と元気よくあいさつする姿が非常に爽やかで気持ちが良い瞬間です。

私が担当するクラスは、日本語能力が「N2」（日常的な場面に加え、より広い場面での日本語をある程度理解できるレベル）です。そのため、基礎を教えるのではなく、彼らはこちらの話す内容をある程度理解でき、意思の疎通も十分にできます。

ただし、日本語の言い回し、例えば「～とともに」「～に伴って」「～につれて」といった表現の意味や使い分けを分かりやすく説明するのに苦労することもあります。今はタオルを片手に、冷や汗と脂汗をかきながら黒板の前に立っています。

彼らの話す日本語がまだ十分ではなく、聞き取れないことも多々あり、何度も聞き返すことが多々ありますが、理解してくれると本当に安心と充実感を感じます。

とはいえ、まだ新米教師ですので、授業の準備には1日に7～8時間かかってしまいます。もう少し効率よく準備を進め、生徒が理解しやすい授業を提供し、彼らが自分の目標に向かって進むための手助けができるようになりたいと思っています。

また、この学校には私と同じように定年退職後に非常勤教師として働く方も何人かおり、70歳近くになっても元気に楽しく勤務されています。そうした先輩たちを見て、私も元気とやる気をもらっています。

私の拙い経験ですが、少しでもお役に立てればと思い投稿させていただきました。定年間際の現役隊員の方々には、定年ギリギリではなく、余裕をもって第二の人生を選択することをお勧めします。

（日本工科大学校日本語講師
海自OB　大林　幸義）

入間（埼玉県）

入間自衛隊家族会、日帰り研修に参加
陸自富士学校と忍野八海を見学

広報館で広報班長による説明を聞く

10月15日、入間地域の自衛隊家族会会員9人が、航空自衛隊OB組織「つばさ会」入間支部主催の日帰り研修に参加しました。

この研修は「つばさ会」の協力の下、昨年に続いて実現したもので、「陸上自衛隊富士学校」と「忍野八海」を訪問しました。

富士学校では、まず広報館で概況説明と質疑応答が行われ、説明役の広報班長が高等工科学校出身であると紹介されると、同校に通う子供を持つ女性会員が特に親近感を抱き、広報班長にさまざまな質問を投げかける様子が印象的でした。

その後は、広報館内で展示品と屋外展示エリアで歴代の戦車や自走砲などを見学。

展示されている戦車は、陸上自衛隊創設期のM4戦車から最新の10式戦車まで揃っており、それぞれの変遷を見比べることができました。

昼食は隊員食堂で、隊員と同じメニューをいただきましたが、特にワカメご飯が好評でした。

午後は東富士演習場へ移動し、安全な観覧エリアで小銃と対戦車無反動砲の実弾射撃訓練を見学。

初参加の会員ご夫妻は、迫力ある射撃音や曳光弾の軌跡に驚きながらも、若い陸自隊員たちの訓練する姿に、自衛隊で勤務する自分たちの子供の姿を重ね合わせているようでした。最後に「忍野八海」を観光し、日帰り研修は無事終了することができました。

地区単位での研修の計画立案、その実施は容易ではありませんが、今後もつばさ会や隊友会の協力を得て、会員に多くの研修機会を提供できるよう努めていきたいと考えています。

（埼玉県自衛隊家族会
会員　小澤　和仁）

家族会　ほっとライン
家族を思う
あなたの気持ちが
日本を支えます

仙台（宮城県）

東北地域協議会開催
活動復活とリーダーシップで家族会を強化

本部から道満地域担当運営委員が列席

10月22日、自衛隊家族会東北地域協議会（会員数8855人）が仙台サンプラザで開催されました。

会議には小倉好文東北方面人事部長、東北6県の地方協力本部長、家族会本部の道満地域担当運営委員が列席しました。

議題は「会勢拡大のための方策」と「安否確認システム整備後の家族支援体制のあり方」の2点です。東北6県の各家族会長・事務局長が発表を行い、その後、各県の地方協力本部長から意見が寄せられました。

特に、コロナ禍で中止となった家族会活動の復活が求められ、地区会長をはじめとしたリーダーの役割が改めて強調されました。

また、新たな安否確認システム『あんぴくん』の導入に伴い、従来の家族支援との連携を円滑にするため、調整会議や訓練の必要性が確認されました。

その後、牛嶋築東北方面総監や宮城県内の駐屯地・基地司令と意見交換会を実施し、防衛を取り巻く情勢や家族会の役割についての理解を深めました。

翌23日には、多賀城創建1300年を記念した多賀城南門や国宝の多賀城碑などの歴史的な地を訪問し、秋の東北の豊かな歴史を堪能しました。

この協議会は、澤村満称子本部長をはじめ宮城地方協力本部の全面的な支援によって実現したもので、心から感謝いたします。

（東北地域協議会
会長　鎌田　徹）

木更津（千葉県）

南関東協議会、定例会議を開催
木更津で意見交換と特別講話

南関東協議会参加者集合写真

南関東地域協議会（高橋亨会長）は、（公社）自衛隊家族会・増田好平会長をお迎えし、9月3日と4日の両日、陸上自衛隊木更津駐屯地および木更津ワシントンホテルで定例会議と意見交換会を開催しました。

定例会議では、令和5年度の事業計画や会計収支報告の審議後、家族会本部から「『あんぴくん』の活用方法」や「昨年度の家族支援専門官」に関する説明がありました。

その後、各県代表による「会勢拡大のための方策」や「自衛隊の募集・援護業務への協力」に関する活発な討議が行われました。

特別講話として、陸上自衛隊第1ヘリコプター団団長・廣瀬敏彦陸将補から「第1ヘリ団による災害派遣活動」についての講演がありました。

意見交換会には、東方総監・冨樫勇一陸将や第1師団長・鳥海誠司陸将、各都県地方協力本部長など多くの高官が臨席し、会員同士の懇親が深まりました。

2日目は第1ヘリ団並びに千葉地方協力本部の協力によりV―22（オスプレイ）の体験搭乗、隊員激励、体験喫食、冨樫総監への表敬・懇談などが行われました。

来年は神奈川県で南関東地域協議会の定例会議を予定しており、南関東1都6県のさらなる連携を図ってまいります。

（〈公社〉自衛隊家族会
理事　高田　克樹）

兵庫県

兵庫県家族会　護衛艦「もがみ」を歓迎
隊員と貴重な交流のひととき

シンプルでスタイリッシュな艦「もがみ」

10月2日、海上自衛隊阪神基地隊主催の護衛艦「もがみ」の特別公開に、兵庫県自衛隊家族会（高木清志会長）を代表して、西神戸地区会（佐坂隆会長）および東神戸地区会（古家法子会長）の会員が参加し、隊員への激励を行いました。

西神戸地区会からは佐坂会長、矢倉理事、田中理事以下5人が、東神戸地区会からは古家会長、花田副会長、古家事務局長、藤岡監事が招待され、入港を歓迎するとともに、日々職務にまい進する海上自衛隊員を激励しました。

公開された護衛艦「もがみ」は、最先端の技術を結集したシンプルでスタイリッシュな艦で、従来のイージス艦に比べてステルス能力が格段に向上しています。

そのため、艦内の写真撮影は原則として禁止されており、説明も概略のみとなりましたが、その進化した性能に感銘を受けました。

自衛隊家族会の参加者は、海上自衛隊阪神基地隊司令の桐生宏幸1等海佐をはじめ、阪神基地隊の隊員の皆さん、そして護衛艦「もがみ」の艦長・榎本健児1等海佐をはじめとする乗艦隊員の皆さん一人一人に激励の言葉をかけました。

短い時間でしたが、意見交換を交え、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

阪神基地隊の皆さまにはご招待いただき、また貴重な体験をさせていただき、心より感謝申し上げます

（兵庫県自衛隊家族会
監事・佐坂　隆
理事・古家　法子）

石川県

東海北陸地域協議会　石川県大会
自衛隊活動への理解を深めた2日間

東海北陸地域協議会参加者集合写真

石川県家族会（中正章会長）は、10月16日・17日の2日間、東海北陸地域協議会を主催県として担当しました。

初日はKKRホテル金沢にて式典を行った後、会勢拡大や地方協力本部との連携強化について各県と活発な意見交換が行われました。

その後、第6航空団司令兼小松基地司令の村上将補から「近年の安全保障環境と災害派遣活動」についての防衛講話を拝聴。特に航空自衛隊の災害派遣活動の実際の取り組みについて学びました。

続く懇親会では、第10師団長や小松基地司令、金沢駐屯地司令、東海北陸各県の地方協力本部長、中部方面総監部の幕僚副長、舞鶴地方総監部の管理部長が出席。

現職自衛官と家族会会員が直接意見を交わし、大変有意義な時間となりました。特に、自衛官の編成や装備が日々進化していることに多くの参加者が感心していた様子でした。

また、金沢駐屯地の自衛隊太鼓や即応予備自衛官・白井士長による日本舞踊のアトラクションも盛況で、参加者はその迫力に感激していました。

2日目は航空自衛隊小松基地を訪問。広報館で基地の概要説明を受けた後、管制塔から離発着するF―15戦闘機や民間機の見学を行い、実際のF―15戦闘機に触れながらコックピットの説明を受ける機会もありました。参加者はその迫力に感動し、貴重な体験となったようです。最後には隊員食堂で体験喫食を行い、売店でのお土産購入も楽しみました。

2日間を通じて、自衛隊の活動や装備について深く学び、家族会の活動への理解がさらに深まった有意義な協議会となりました。

（石川県自衛隊家族会
会長　中　正章）

滋賀県

近畿地域協議会を開催
「会勢拡大と家族支援の強化」をテーマに

近畿地域協議会参加者集合写真

滋賀県自衛隊家族会は11月9日、滋賀地方協力本部（本部長・?田修造1等陸佐）の支援をいただき、琵琶湖ホテルにて近畿地域協議会を開催しました。

今回の協議会には、（公社）自衛隊家族会の乾悦久運営委員、協議会の河本順雄会長をはじめ、関係者が多数出席しました。

研修課題として取り上げられた「会勢の維持拡大のための方策」や「安否確認システム整備完了後の家族支援要領、安否確認以外の要望にどうこたえるか？」について、各府県から活発な意見が交わされ、今後の自衛隊家族会運営に活かしていきたいと考えています。

休憩を挟んだ後、記念講話では、海上自衛隊舞鶴地方総監・伊藤秀人海将に、演題「海上防衛についての雑考」をご講演いただきました。感謝申し上げます。

その後、意見交換会が行われ、各部隊からの要望や、会員同士の親睦を深める場となり、和やかな雰囲気の中で進行しました。

本会議は、多くの意見交換と親睦の機会を提供し、今後の活動につながる貴重な時間となりました。

（滋賀県自衛隊家族会
事務局長　宮田　冨也）

愛媛県

婦人部「てんりゅう」体験航海
県出身3隊員との再会も実現

県出身隊員を囲んで記念撮影

愛媛県自衛隊家族会婦人部（森部長）は、10月13日、呉地方隊創設70周年を記念した訓練支援艦「てんりゅう」の体験航海に参加しました。参加者は森婦人部長をはじめとする17人で、広島県内を中心に約3000人が乗艦するなど、海上自衛隊の体験航海は大変人気が高いことに驚かされました。

体験航海は、呉基地（係船堀）を出発し湾内を周回するルートでした。残念ながら江田島の幹部候補生学校を目にすることはできませんでしたが、途中で護衛艦や潜水艦を見ることができ、若い乗組員の規律正しい態度に感動したとの声が婦人部会員から多数寄せられました。

また、今回の航海で特に楽しみにしていたのは、県出身隊員3人との面会です。艦長と乗組員の皆さまのご配慮により、航海の最後に出身隊員と再会し、森婦人部長から激励の言葉をかけた後、記念撮影が行われました。

今回の体験航海を通じて、婦人部は呉地方隊、艦長、乗組員、そして自衛隊愛媛地方協力本部の皆さまに感謝の意を表し、今後も海上自衛隊をはじめとする自衛隊の支援と応援を続けていくことを誓いました。

（愛媛県自衛隊家族会
事務局長　越智　泰司）

宇都宮（栃木県）

陸自航空学校「羽黒山登山走」
家族会会員12人　学生を応援

力走した学生たち（写真:北宇都宮駐屯地）

9月26日、陸上自衛隊航空学校宇都宮校で、第63―219期陸曹航空操縦課程の学生20人が恒例の「羽黒山登山走」に参加しました。

これは、羽黒山（標高458㍍）の山道約4km、標高差258㍍を駆け上がる競技です。

栃木県自衛隊家族会の会員12人も応援に駆けつけ、学生たちを激励しました。

応援団が声を枯らして応援する中、特に最後の急坂で学生たちは歯を食いしばり、力走を続けました。

この後、学生たちはTH―480Bによる操縦教育を開始し、9カ月後のウィング・マーク取得を目指して厳しい訓練に挑みます。

（栃木県自衛隊家族会
会長　古橋　一男）

青森市（青森県）

八甲田山遭難慰霊墓地　清掃活動
旧陸軍英霊を偲び、家族会が奉仕

1時間足らずで作業完了

10月19日、青森市自衛隊家族会は、明治35年1月に八甲田山で雪中行軍中に遭難した旧陸軍歩兵第5聯隊の199柱の英霊が眠る、青森市幸畑の幸畑陸軍墓地で清掃奉仕活動を行いました。

当日は地域に大雨警報が発令される中、青森駐屯地曹友会の指導の下、「台風規模の悪天候以外は実行する」との気合で活動を実施しました。

家族会は陸上自衛隊青森駐屯地司令・岡部健陸将補をはじめ、駐屯地修親会、青森県隊友会東青支部と合同で、落ち葉や枝の片付け作業を行いました。

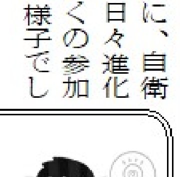
作業開始早々に雨が断続的に降りましたが、参加者はこれまでの活動経験と情熱をもって効率よく作業を進め、約7000平方㍍の広大な墓地内も約100人規模のメンバーで1時間足らずで清掃を終えました。

明治の防人たちの眠る場所を清掃できたことに、参加者は改めてその重要さと誇りを実感しました。

（青森市自衛隊家族会
会長　成田　光男）

解答

数字　頭の体操㉔



答　（3時）$3\frac{7}{11}$分

解説

長針と短針の動きを図に書いてみましょう。

最初、長針と短針のなす角度は90度です。

求める経過時間（分）を□分とすると、

短針は1分間に0.5度進むので、0.5×□が、

長針は1分間に6度進むので、6×□が、

それぞれ、□分間に動きます。

そして、長針と短針との角度が70度になったとき描いた図から分かるとおり、

（70度−0.5×□）と6×□の和が90度となります。

これを式にして計算すると、□=$\frac{7}{11}$分

（問題は、4面に）

訂正：「おやばと」11月号8面「写真で振り返る自衛隊創設70周年」「防衛庁・自衛隊が創設。」の記事中、「1959年7月1日」を「1954年7月1日」に訂正します。

秘密厳守
隊員及び家族の皆様の
遺言アドバイザー
（遺言・相続 専門）
遺言書がなく揉める相続。
揉めたら全員が敗者です。
あなたの遺言書があなたの
家族を守ります。「遺言書」
づくりをサポート致します。
柴田純一
行政書士
遺言書は、家族の絆の証明書!!
行政書士　柴田法務会計事務所
〒173-0035 東京都板橋区大谷口2-24-13 受付時間／10:00～18:00
TEL 03-6780-1408 FAX 03-6780-1409
E-mail／info@yuigonsyo.biz https://yuigonsyo.biz